

メディア

国内編成

国内放送番組編集の基本計画

「2022年度（令和4年度）国内放送番組編集の基本計画」は、放送総局内で議論を重ねたうえ、編成局で原案を作成した。この原案を理事会で決定し、12月、中央番組審議会に諮問、答申を得たうえ経営委員会で決定した。

以下はその原文である（p.124まで）。記号などは本書の方式に合わせた。

1 編集の基本方針

私たちの放送・サービスのすべての礎になるのは、視聴者のみなさま一人ひとりの声です。この原点に改めて立ち返り、全ての人に「安全・安心」、「正確・良質」で多様なコンテンツを届け、信頼される「情報の社会的基盤」としての役割を果たす取り組みを強化していきます。テレビ保有率の低下やインターネット利用時間の増加、グローバル配信事業者の台頭、民放の同時配信サービス開始など、メディア環境は大きく変化しています。こうした中、放送だけでなくNHKプラスでの同時・見逃し配信サービス、ホームページやSNSといったインターネット、DX（デジタルトランスフォーメーション）を意識した最先端のAI技術などを駆使しながら、公共メディアのNHKだからこそお届けできる放送・サービスの実現を目指します。

視聴者のみなさまからの信頼を向上させるために、放送法で定められた公共放送の基本姿勢を堅持します。自主自律と不偏不党を貫き、表現の自由を守るとともに、健全な民主主義の発達に資する放送・サービスを提供します。正確な情報を公平・公正に伝え、豊かな文化を創り守りながら、多彩で質の高い番組を追求します。

新型コロナウイルスの感染拡大からおおよそ2年。先行き不透明な時代を生きるすべての人々に、

必要な情報を提供します。また、数十年に一度の大雨や超大型台風、猛暑といった世界的な気候変動、どこでも起きうる大地震など、私たちの暮らしは自然災害と隣り合わせです。視聴者のみなさまの安全・安心につながる情報を正確、かつ、迅速に、さまざまな媒体を通じてお届けしていきます。

国連が定めた持続可能な開発目標、SDGsの17の目標を意識したコンテンツを積極的にお伝えします。そして、“東京2020”でのユニバーサル放送（字幕放送・解説放送・手話放送など）の知見も生かしながら、多様性を尊重し、ともに支え合いながら生きる社会の実現を後押しします。地域社会への貢献にも力を尽くします。NHKの強みである全国ネットワークを最大限に生かし、地域の発展を支援します。

2023年2月はテレビ放送開始70年の節目です。NHKは、受信料の重みを常に意識しながら、視聴者のみなさまの声を大切に、正確な報道、暮らしに役立つ情報、教育番組、ドキュメンタリー、さまざまな人が楽しめる娯楽など、公共メディアに求められるコンテンツを提供し、信頼の獲得に努めます。

2 編集の重点事項

【1】一人ひとりの命を守り、安全で安心な暮らしに貢献

新型コロナウイルス感染症を克服し、どう社会経済活動との両立を図ってゆけばよいのか、世界中で模索が続いています。ワクチンや新しい治療薬、経済との両立施策など、最新の動きを取材してお届けします。また、新型コロナウイルスを含めて、世の中には、医療や健康に関する不確かな情報があふれています。科学的根拠に基づいた正確な情報を、わかりやすく深く伝えます。コンテンツの提供を通じて、みなさまの健康寿命を延ばすことに貢献します。

自然災害で被害を受ける人を一人でも減らすために、想定される被害の情報提供や避難の呼びかけをいち早くおこなったり、自動音声を使って、刻一刻と変化する気象情報を終夜で丁寧にお伝えしたりします。また、大規模災害が発生した際には、全国の放送局と本部が連携して被災地に必要な情報を届け、柔軟な編成で地域によりきめ細かな情報を伝えます。テレビとラジオ、インターネットを使って的確な情報を全国発信し、命と暮らし

しを守る報道に全力を尽くします。

新型コロナウイルス後遺症や経済の再生、東日本大震災をはじめとする全国の被災地の復興支援、原発事故後の記録などについて継続取材し、課題を伝えます。

[2] 持続可能な社会を目指し、 日本と世界の課題を発信

地球規模で深刻化する気候変動と温暖化、世界で広がる経済的な格差、少子高齢化の日本で膨らみ続ける社会保障費など、先送りできない課題が山積しています。

国連が定めたSDGsの17の目標を踏まえながら、どうしたら持続可能な社会を築けるのか、視聴者のみなさまと課題を共有し、解決の道筋を考えていきます。そのために、NHKは、正確で公平・公正な情報を、早く、深く、わかりやすく伝え、判断のよりどころとなる「情報の社会的基盤」の役割を果たします。意見が対立している問題については多くの角度から論点を明らかにし、広く議論の場を設けます。それぞれのテーマについて、番組だけでなくデジタルコンテンツやイベントなどで視聴者のみなさまとつながり、情報提供や議論への参加を積極的に進めます。

[3] 幅広い視聴者に応える、 多彩で質の高いコンテンツを提供

1世帯当たりの人数の減少と家族構成の変化、インターネットによる動画視聴の一般化など環境が激変する中で、視聴者のみなさまの期待や関心の多様化が進んでいます。NHKに求められるニーズをきめ細かく把握・分析し、ニュース、スポーツ、教育、福祉、暮らし、教養、趣味、実用、ドラマ、エンターテインメント、伝統芸能、アニメなど多彩なジャンルで、豊かで質の高いコンテンツをお届けします。また、NHKの公共的価値を実感できるキャンペーンを実施し、社会に貢献することを目指します。合理的なコストでできるだけ多くの方にコンテンツの魅力を伝えるために、これまで以上にマルチユースを進めます。

地上波の番組では、NHKプラスでの同時・見逃し配信サービスを、PC・スマートフォン・タブレットでの視聴に加えて、新たにテレビでも見逃し番組をご覧いただけるよう拡充し、みなさまの生活スタイルに合わせた視聴が可能になるよう努めます。また、インターネットサービスでは、放送では伝えきれなかった情報を提供し、番組内容の理解増進に寄与します。放送とデジタルが連

動してサービスの進化を目指し、視聴者のみなさまの利便性向上に尽力します。

[4] 地域情報の全国発信を強化し、 各地域の発展に貢献

各地の放送局は地域に根ざした取材・制作に尽力し、みなさまの関心の高いテーマや固有の課題などを積極的に取り上げて、地域社会に貢献します。

地域で制作したニュースや情報番組などを全国放送でも編成して“地域の今”をお伝えします。また、全国ネットワークを生かして各地の放送局が協力し、自然、文化、歴史、人々の営みなど、その地域ならではの魅力を発掘。地域を応援する全国放送のコンテンツを積極的にお届けします。

NHKプラスは地域番組の配信拡充を一層進め、NHKならではのネットワークを生かして、各地域のコンテンツをより多くのみなさまにお届けします。

ふだんから大阪拠点放送局と各地の放送局の連携を強めて、東京の放送センターの代替機能を強化。また、地域が災害に見舞われた際は、本部をはじめ全国の放送局が協力して支援をし、確実に放送・サービスを提供します。

[5] 多様な価値を認め合い、ともに生きる社会 を目指した放送・サービス

すべての人が多様な価値観を大切にしてお互いの人格と個性を尊重し合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる「共生社会」の重要性を再認識し、その実現を後押しします。

障害のある人もない人も、あらゆる性自認、性的指向の人も、そして年齢や国籍に関わりなく、多様な私たち一人ひとりが、自分らしく生き生きと暮らせる社会の実現には、どのような課題があり、どのように取り組めばよいのか。ニュースや多彩なジャンルの番組、デジタルコンテンツ、イベントなどさまざまな形で現実や課題を伝え、視聴者のみなさまとともに、解決の道筋を探っていきます。

字幕放送・解説放送・手話放送などのユニバーサル放送・サービスについては、これまで以上に、見やすく、聞きやすく、安心して視聴できるよう、さらなる工夫を積み重ね、充実に取り組みます。また、出演者の選定にあたっては、ジェンダーや新たな視点を意識し、多様性の観点を踏まえた取り組みを継続します。

[6] 青少年や子どもの教育と健全な育成、 “人生100年時代”の学びを支援

新型コロナウイルスの感染拡大は、子どもたちの学習環境を大きく変えました。学びを守るためには何が必要なのか。教育現場が抱える課題を伝えるとともに、子どもたちの興味・関心に応え、親子が安心して視聴できる番組やデジタルコンテンツを充実。子どもたち一人ひとりの端末での学習に対応した形で、学びをサポートします。豊かで活力ある社会を作り上げるために、次の時代を担う青少年や子どもの教育と育成を支援することは、公共メディアの重要な使命です。

また、“人生100年時代”、大人の知的好奇心を満たすコンテンツの充実に力を入れていきます。幅広い教養の獲得や学問の深い探求、新しい知識・技術の学び直しを可能にする番組を放送するとともに、デジタルサービスでは、より掘り下げた情報や短時間で学びやすい動画など、媒体の特性を生かした形で提供します。

[7] 分断ではなく対話を 日本と世界の相互 理解を促進する発信を強化

新型コロナウイルスのワクチン接種をめぐる意見対立、各地で深刻化する人道危機、大国間のあつれき。“分断”のキーワードは、今も世界を覆い続けています。

世界で何が起きているのか、どうすれば多様性を尊重する価値観が浸透し、“対話”につながるのか。国際社会の相互理解を進めるため、世界の情勢や各国の動向を正確な情報で深く伝えます。

また、世界各地の魅力あふれる大自然や生き物、文化、芸術、遺産などを、超高精細映像も活用して記録し、多様なコンテンツで紹介します。日本の魅力や文化についても、コンテンツの国際展開などを通じて、広く世界に発信します。

[8] “東京2020”のレガシーを生かし、 放送・サービスを充実

緊急事態宣言が発出される中、原則無観客という異例の形で開催された東京オリンピックとパラリンピック。コロナ下でも、最高のパフォーマンスを発揮しようと力を尽くすアスリートの姿と、勝敗に関係なく、互いを鼓舞し、たたえ合う姿勢は、スポーツ本来の意義を思い出させてくれました。

この“東京2020”で得た知見を、次の時代の放送・サービスに継承していきます。まず、オリ

ンピック・パラリンピックそれぞれで認知度が上がった競技を含めて、幅広い世代の興味に即したスポーツの魅力をお伝えしていきます。また、生放送でも字幕をぴったりあわせる技術を活用した番組など、ユニバーサル放送・サービスの進化に努め、障害の有無や年齢に関わらず、誰もがわかりやすい放送を目指します。

“東京2020”をきっかけに充実した技術やサービスを次につなげ、多様な価値観を認め合う共生社会実現に向けたメッセージを発信し続けます。

これらの重点事項は、以下の基本的な考え方に基づいて実施します。

▶NHKは公共メディアとして、特定の指標に偏らず、多角的な視点から、コンテンツを評価することが重要であると考えています。これまでの質的、量的評価の指標に加え、デジタルでの視聴、リアルイベントなど、多様な観点でコンテンツやジャンルごとに的確に評価を行います。

▶昨年度、「新しいNHKらしさ」を追求するため、「波」別の個別番組管理から、より全体をふかんで、10の「ジャンル」別の総合管理へ転換しました。それぞれのジャンルに対する、視聴者のみなさまのニーズを把握・分析した結果に基づき、予算や制作総量などの資源を適切に配分します。さらに、それぞれのジャンルで強化方針を明確にし、視聴者のみなさまにお届けする放送・サービスの価値を最大化します。

▶放送・デジタルサービスなどすべてにおいて、自らの発信が「公平・公正」で「正確」な内容であるのか、また、人権や多様な価値観を尊重しているのか、メディアリテラシーの向上に努めながら不断に評価・検証し、放送倫理やコンプライアンス意識を徹底します。長年培ってきた取材力・制作力を発揮して、事実に基づく確かな情報の提供と質の高いコンテンツの制作に努めます。

▶ウィズコロナを前提に、NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意して、リモートを積極的に活用したコンテンツ制作を推進。表現の新たな可能性も追求します。創造的で活力ある職場を構築するために、リモートワーク推進・業務フローの抜本的見直しなどの働き方改革やダイバーシティ施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。

▶2K（ハイビジョン）・4K・8K番組の一体制

作、国際放送向け番組・地域向け番組・全国向け番組のマルチユースなど、さまざまな放送波・時間帯での番組のマルチユースをさらに進め、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。

3 各波の編集方針

【1】総合テレビジョン

公共メディアの基幹波として、信頼される「情報の社会的基盤」の役割を果たすため、正確・迅速かつ公平・公正で社会の指針となるニュースや、文化・娯楽・スポーツなどの多彩な番組を編成します。全国ネットワークの強みを生かし、地域サービスの向上を図ります。また、さまざまな手法で社会的な課題の解決に取り組むキャンペーンを展開します。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

【2】教育テレビジョン(Eテレ)

子どもから大人まで、“人生100年時代”の教育放送として、幅広い世代に向けた教育、福祉、教養、趣味、実用など、多彩な番組を編成します。番組とインターネットの連携強化、配信コンテンツの充実、家庭での学習を意識した番組の開発など、学びの機会を広げます。また誰もが楽しめるユニバーサル放送・サービスをより充実させ、共生社会の実現を目指します。

〔放送時間〕

- 1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

【3】BS1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「スポーツ」「国際」「ドキュメンタリー」「地域」の4分野を軸に、刻々と変化する視聴者のみなさまの関心にしっかりと応えていきます。

ウィズコロナの時代に大きく変わりつつある世界や人々の動きを、正確かつ多角的に伝えるニュースやドキュメンタリーを編成します。東京オ

リンピック・パラリンピックを通じて得られた知見や成果を継承し、新しいスポーツ番組の開発を行うとともに、スポーツを通じた共生社会の実現を目指す番組にも注力します。また、地域関連番組にも力を入れ、豊かな日本の魅力を発信するとともに、地域固有の課題を広く伝えます。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

【4】BSプレミアム

個性と見応えを追求した多彩な知的エンターテインメント番組を提供します。自然、文化、歴史、芸術、趣味、ドラマなど、さまざまなジャンルで“本場”“一流”“最前線”にこだわったスケール感のある番組を届け、格別な満足感を得られるチャンネルを目指します。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 特に定めません。

【5】BS 4 K

4Kの機動力と高画質の魅力を生かした幅広いジャンルの番組を提供し、超高精細映像チャンネルの先導的な役割を果たします。2Kと4Kの一体制作を進めるとともに、良質なアーカイブ映像の4Kリマスターを推進し、BS4Kの普及に向けて多彩な番組を提供していきます。

〔放送時間〕

- 1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 特に定めません。

【6】BS 8 K

新しい視聴体験に挑戦する世界最先端のメディアとして、未知なる映像文化を切り開く番組を提供します。また、未来に残すべき文化財や芸術を最高水準の映像で記録し、社会貢献の役割を果たします。8Kの特性を生かした臨場感あふれる中継にも取り組み、最高水準の放送サービスの実現に寄与します。

〔放送時間〕

- 1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 特に定めません。

【7】ラジオ第1放送

安全・安心を担う音声基幹波として、命と暮らしを守る情報を届けます。また、多様なジャンルの番組をバランスよく提供し、さまざまな世代のリスナーに支持されるよう編成します。さらに、デジタル展開は、インターネットラジオ「らじる★らじる」を中心に積極的に推進します。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

【8】ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成します。語学番組の充実、インターネットサービスとの効果的な連携を図り、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

- 1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

【9】FM放送

音楽・芸能を中心に文化・教養まで幅広く、リスナーの興味や関心に応える専門的な番組を編成します。また、災害などの緊急時には、ラジオ第1放送とも連携して機動的な編成を行います。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

- 定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。

放送番組の改定

1 4月の番組改定

【1】総合テレビジョン

①新しいNHKらしさをけん引するニュース・報道番組を強化

新型コロナウイルス感染再拡大への懸念や、自然災害の激甚化への不安が高まる中、安全・安心を求める視聴者の声にさらに的確かつ迅速に応えるため、ニュース・報道番組を強化した。土曜夜間に新しい大型ニュース番組『サタデーウオッチ9』を新設したほか、平日午後5時台のニュースを大幅にリニューアル。『ニュースLIVE! ゆう5時』をスタートした。

②平日ゴールデン帯や土日の夕方にファミリー視聴ゾーンを新設・強化

『クローズアップ現代』を午後10時台から月曜から水曜の午後7時台に移設して改題。1993年から放送し続けてきた番組を大胆に進化させ、“こういうことが知りたかった”という時代のニーズに応え、家族のコミュニケーションの起点となることを目指した。木曜午後8時台には『あしたが変わるトリセツショー』を新設。暮らしや食、健康などさまざまな話題からテーマを選び、大実験や大調査から、家庭で役に立つ情報を届けた。

土日の午後6時台には『これって攻めすぎ!? 世界旅行』*と『香川照之の昆虫すごいZ!』『超ギョギョッとサカナ★スター』を新設。家族全員でリラックスして見られ、知的好奇心を満たす時間帯として強化した。

※ロシア軍のウクライナ侵攻による世界情勢の不安定さから『これって攻めすぎ!? 世界旅行』は、4月の放送開始を見合わせ、7月下旬から深夜で放送を開始した。なお、当初、『これって攻めすぎ!? 世界旅行』を予定していた土曜午後6時台には1年を通じて『週刊ワールドニュース』を編成して世界の最新事情を伝えた。

③平日午後10時台に大人向け教養、エンターテインメント番組の強化

上質でこころに潤いをもたらすようなコンテンツを求める大人の視聴者に向けて、月曜から金曜の午後10時台に、多彩な番組をラインナップした。月曜の午後10時台は『映像の世紀バタフライエフェクト』を新設。世界中の映像記録を活用

した、NHKにしかできない番組を届けた。

④平日午後10～11時台に、若者層向けゾーンを新設

月曜から木曜の午後10時45分は『夜ドラ』を新設。帯のドラマ枠で話題作を提供した。午後11時台は今あるテレビ番組では飽き足らない若年層向けに特化したゾーンとし、3か月ごとに番組を入れ替えるなど、多様で“とがった”番組を編成した。

⑤番組開発と新しいドキュメンタリーへ挑戦する枠の新設

土曜午後11時30分からは『レギュラー番組への道』を新設し、「新しいNHKらしさ」を追求する開発番組を放送。また月曜午前0時台は『ドキュメント20min.』を新設し、次世代に向けた新しいドキュメンタリー番組に挑戦した。

⑥地域情報の全国発信の充実・強化

地域放送局からの全国発信を強化するため地域発ドキュメンタリー枠『Dearにつぼん』『探検ファクトリー』を新設し、土曜の午前から午後0時台を地域情報を発信するゾーンとした。また水曜夜間の『ロコだけが知っている』を枠拡大し、最新の地域情報を全国発信した。

[2] 教育テレビジョン(Eテレ)

①朝の“幼児・子ども番組ゾーン”に新番組

子どもたちが楽しい気持ちで一日をスタートできる新番組をスタート。平日の朝は、今田耕司が全国の子どもたちとリモートでつながり元気な“朝の会”を行う『オハ！よ～いどん』、発達障害の子どもたちの理解につながる番組『でこぼこポン！』を新設。土曜の朝は、“新しい地図”の3人が好奇心旺盛な子どもたちの世界を広げる教育バラエティ『ワルイコあつまれ』を新設した。

②「学校放送番組」「高校講座」をつなげた“学びのゾーン”を新設

これまで午後2時台に放送していた『NHK高校講座』を移設し、午前9時台の「学校放送番組」につなげることで、平日午前に約2時間の“学びのゾーン”を新設した。また、曜日ごとのラインナップも教科ごとに分かりやすくし、学校に行くことが難しい子どもたち、通信制・定時制高校に通う学生、学び直しをしたい人たちの利便性を高めた。学校放送番組では、授業などで使用が増えているタブレット端末で、情報を正しく取捨選択出来るようにメディア・リテラシーを学ぶ番組『アッ！とメディア』をスタートした。

③平日夕方の幼児・子ども番組を生活実態にあわせて編成

午後4時台に放送していた幼児番組『おかあさんといっしょ』『みいつけた！』を保育園児の帰宅時間に合わせて午後6時台に移設。それに伴い、午後4時台には『にほんごであそぼ』『えいごであそぼ with Orton』を移設し、学校放送ゾーンを新設した。午後5時台には、夕食前のひとときを子どもたちがワクワクしながら楽しめるよう『天才てれびくんhello.』『ビットワールド』や、人気アニメ『おじゃる丸』を移設した。

④夜のファミリー番組を強化

小学生、中学生、高校生が家族と一緒に楽しめる番組を夜の時間帯に新設。午後7時台には、SixTONESが司会を務める『バリューの真実』を新設。10代の若者が気になる“他人との価値観のズレ”を検証した。水曜午後7時台は、父親が子育てに奮闘する姿を定点カメラで見つめ、カリスマ保育士がアドバイスを送る番組『ハロー！ちびっこモンスター』を新設。木曜午後8時台には、ロッチのふたりとお悩みを抱える人が、世界の哲学者の言葉を頼りに生きるヒントを見つけていく『ロッチと子羊』を新設した。また金曜午後7時台には、さかなクンが知られざる魚の生態を深掘りし、楽しく教えてくれる『ギョギョッとサカナ★スター』を新しくスタートした。

⑤土日の子ども番組ゾーンを充実

土曜の夕方は子ども向けのアニメを充実させた。午後5時台の『おかあさんといっしょ』の後に幼児に人気の『きかんしゃトーマス』を移設し、親子で楽しめる時間を増やした。午後6時台には10代向けの青春サッカーアニメ『アオアシ』をスタート。続けて小中学生に人気の音楽番組『ムジカ・ピッコリーノ』を放送した。日曜午後5時台は小学生の知的好奇心に応えるゾーンとして、世界の文化に触れる『ニャンちゅう！宇宙！放送チュー！』と、科学エンターテインメント番組『スイエンサー』を放送した。

⑥平日夜間帯のライフ・教養ゾーンの強化

多彩な文化や教養に触れ、人生を豊かにしてくれる大人のためのライフ・教養ゾーンとして強化した。『NHKアカデミア』は、第一線で活躍する知識人やクリエイターが、今最も面白いと思うテーマで語る新しい講座番組で、デジタルとの連携を強化した。『新・につぼんの芸能』は、これまで古典芸能になじみのなかった初心者でも、その魅力を気軽に楽しめる番組として『につぼんの

芸能』をリニューアルして伝えた。さらに、イギリスで人気の料理コンテスト番組『ブリティッシュ・ベイクオフ』を放送。料理だけではなく、ヒューマンドキュメンタリーとしても見どころがあった。『言葉にできない、そんな夜。』は、言葉の面白さや奥深さを伝える新感覚国語エンターテインメントとして放送した。

⑦土曜夜間に“若者ゾーン”を新設

10代、20代の若者の知的好奇心に応える番組を土曜午後9時から2時間のゾーンで編成した。クリエイティブな感性を刺激する番組『ヒヤダ×体育のワンルーム☆ミュージック』は、パソコンひとつで自由に音楽を作る楽しさを伝えた。『超多様性トークショー！なれそめ』は、多様なカップルの出会いの物語を通して、MCの田村淳がふたりの価値観や生き方に迫るトークショー。『太田光のつぶやき英語』は、SNSで話題になっている世界の最新事情を読み解きながら、英語を楽しく学ぶ番組として若者向けにリニューアルし、土曜夜間に放送した。

⑧語学番組の充実

ビジネスなどでニーズが高まっている「中国語」「ハンゲル」をリニューアル。語学の学習だけでなく、その国の文化を知り理解を深める番組として内容を充実させた。語学をもっと学びたい人はラジオの番組でさらなる学習ができるよう、テレビとラジオの連携を強化し、さまざまなニーズに応えた。

[3] BS1

①国内外の「今」を伝える幅広い番組を編成

日本国内・世界の最新動向に対する視聴者の関心に応える、ニュース・情報番組、ドキュメンタリーなど、多角的な番組を編成した。

②新たなスポーツ番組の開発・編成を強化

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承するために、若年層に人気の高い競技など、新たなスポーツ番組の開発に積極的に取り組んだ。『スポーツ×ヒューマン』でも活躍が期待される新星を取り上げていった。

③地域情報の全国発信を充実

スポーツと地域の関わりをドキュメントする『スポデカラ!』、地域情報を全国発信する『〇〇推し!』など、バラエティー豊かな番組で地域の魅力・課題を伝えた。『BSニュース4K+ふるさと』では、一日を振り返るニュースだけでなく、各地の話題や取り組みを高精細な映像で全国に届けた。

④平日夜間の国際ニュース・スポーツ情報番組ゾーンの強化

午後10時台の『BSニュースWorld+Biz』を10分繰り上げ、『ワースポ×MLB』を午後10時台に移設した。『国際報道2022』から『ワースポ×MLB』までシームレスにつなげることで、国際ニュースと海外のスポーツの最新情報を届ける時間帯として強化した。

[4] BSプレミアム

①幅広い視聴者を満足させる特集番組を週末に編成

土曜夜間は、自然・紀行・歴史・ドラマなど、多くの視聴者の関心を集める特集番組や中継番組を多彩に編成し、BSプレミアムの存在感を高めた。また、金曜夜間は特集番組枠として『金曜スペシャル』を継続し、衛星放送ならではの満足感を追求する幅広いジャンルの番組を編成した。

②ターゲットを意識した夜間帯の編成の強化

平日夜間は、2000年から2005年まで放送した『プロジェクトX 挑戦者たち』の4Kリマスター版を編成した。木曜午後8時台は、『岩合光昭の世界ネコ歩き』、火曜午後10時台には『ヒューマニエンス 40億年のたくらみ』を移設し、関心のある視聴者がより見やすい時間帯を意識して編成した。

③日曜の朝、大人の視聴者の期待に応える番組を編成

日曜午前6時台の『大河ドラマアンコール』枠を30分繰り下げ、日曜午前7時台に移設し、午前6時台には『晴れ、ときどきファーム!』、『釣りびと万歳』の再放送枠を移設することで、早朝からアクティブに活動する視聴者の期待に応えられる番組を編成した。午前8時台には、『ダーウィンが来た!選』、『ふるカフェ系 ハルさんの休日選』『ガイロク(街録)』を編成し、日曜の朝、大人の視聴者がゆったりと楽しめる番組を編成した。

④アーカイブス番組を有効活用した編成

過去に放送した『NHK特集』や『新日本紀行』、ドラマ番組など、NHKの資産であるアーカイブス番組を最新のデジタル技術で4Kリマスターし現代によみがえらせ、新たな魅力を掘り起こした。

[5] BS 4 K

① “超高精細映像でもっと楽しむ”

BS 4 K普及に向け多彩な番組を編成

BSプレミアムの定時番組の多くを2K4K一体制作し、より多くの番組を超高精細映像でお届けした。『プロジェクトX 挑戦者たち 4Kリストア版』や過去の名作ドラマなど、貴重なアーカイブ映像を4Kでよみがえらせ、新たな楽しみを時代を超えて視聴者に届けた。

② 4Kの高画質と機動力を生かした中継番組、ニュース番組を放送

4Kの特性を生かした大相撲中継や、日本各地の旬な今を伝える中継番組を4Kで編成した。『BSニュース4K+ふるさと』は放送時間を繰り上げ、より視聴しやすい時間帯で地域話題を伝えた。

[6] BS 8 K

① 圧倒的インパクトのある8Kクオリティーの

新機軸のコンテンツを、土曜・日曜に集中編成

息を飲むような映像体験が楽しめる自然番組や美術番組、“超一流”のコンサートや舞台を観客席で体験できるようなエンターテインメント番組、さらには、8Kらしさを生かした新機軸の中継やドキュメンタリーを土曜・日曜午後に編成した。

② 世界最高水準のスポーツ映像体験を提供

躍動する選手たちの身体のディテールのみならず、試合の緊迫感までリアルに伝えるスポーツ中継やハイライト番組を放送。各放送局の受信公開施設とも連携し、世界最高水準のスポーツ映像体験を多くの視聴者に届けた。

③ 8Kの魅力を凝縮した番組をテーマ別に編成

世界に誇る8Kの美しい映像と臨場感あふれる番組を、紀行・自然・美術・エンターテインメント・スポーツ・ドキュメンタリーなどのテーマ別に定時的に編成し、視聴者により分かりやすく届けた。

[7] ラジオ第1放送

① 平日午後帯、地域情報の発信を充実

地域放送局から全国に向けて地域情報を発信する番組『にっぽん列島夕方ラジオ』の放送時間を拡大。午後4時台は大阪放送局から関西の情報を中心に届けた。また、『ごごカフェ』内で地域放送局が取材した地元のニュースをお届けする“列島リレーニュース”も拡充。全国各地のニ

ュースをより多く伝えた。

② 金曜午後8時台、報道・社会問題に向き合う番組を新設

『ジャーナルクロス』を新設し、ニュースをせき止めて特集するとともに、10代の悩みやひきこもりなど、さまざまな社会問題に向き合った。

[8] ラジオ第2放送

① 語学番組の強化

英語番組の内容を刷新・強化した。最新のニュースの背景を解説しながら、より生きた英語を学べる番組『ニュースで学ぶ「現代英語」』を新設したほか『中学生の基礎英語』シリーズを週末夜間にも編成し、さらなる聴取者の開拓を目指した。

[9] FM放送

① 朝の時間帯に語学番組を編成

経営計画で示した音声波の再編を検討する一環として、英語を学ぶ番組をラジオ第2放送と同じ時間帯に編成した。

2 年度途中の新設番組など

[1] 総合テレビジョン

① 新設番組

後半期の改定では、『ヒロイン誕生！ドラマチックなオンナたち』（10.3～）や『ゲームゲノム』（10.5～）を新たにスタートさせた。

② ドラマの新シリーズ

『連続テレビ小説』は「舞いあがれ！」（10.3～）、『大河ドラマ』は「どうする家康」（1.8～）を開始。月曜から木曜午後10時45分の『夜ドラ』では「つまらない住宅地のすべての家」（10.10～）、「作りたい女と食べたい女」（11.29～）、「ワタシってサバサバしてるから」（1.9～）を放送した。また、火曜午後10時の『ドラマ10』は、「拾われた男」（10.11～）、「大奥」（1.10～）を放送した。土曜には、午後9時台の『土曜ドラマ』で「一橋桐子の犯罪日記」（10.8～）、「探偵ロマンス」（1.21～）を放送した。

[2] 教育テレビジョン(Eテレ)

後半期の改定では、『理想の本箱 君だけのブックガイド』（10.1～）や、『ねほりんぱほりん』（10.7～）、『カズレーザーvs.NHK高校講座』（12.3～）などを新たに放送した。

【3】BS1

野球などのシーズン終了や欧米の冬時間等に伴い、主に11月7日以降、一部改定を実施した。日曜午後9時台には、『球辞苑』の第7シーズン(11.20～)を新設した。

【4】BSプレミアム

後半期の改定では、『ザ・プロファイラー～夢と野望の人生～』(10.6～)を半年ぶりに編成。また、1993年から10年間放送され、人気を博した『ふたりのビッグショー』(10.4～)を新設するとともに、月～土曜の午前7時台に『連続テレビ小説』「本日も青天なり」(9.19～)のアンコール放送をスタートした。

【5】ラジオ第1放送

プロ野球デーゲーム終了に伴い、土曜の午後の編成を改定した。午後2～3時台にK-POPアーティストの楽曲を中心に紹介する『古家正亨のPOP★A』(10.1～)を半年ぶりに編成した。

【6】ラジオ第2放送

前期の『ポルトガル語講座』の後継番組として、『ポルトガル語ステップアップ』(10.1～)を新設し、日本に暮らすブラジル人との交流を通じて基礎のポルトガル語を学びながら文化を紹介した。

国内放送番組審議会

(各審議会委員一覧⇒p.348)

1 概要

放送番組審議会は、放送事業者に対して放送法で設置が義務づけられている法定の審議機関である。NHKは国内放送に関わる「中央放送番組審議会」と8つの「地方放送番組審議会」、国際放送に関わる「国際放送番組審議会」(⇒p.131)を設置している。

番組審議会は、放送番組の適正を図るための自律措置として設けられているものであることから、委員の人選にあたっては学識経験者などの中から、社会動向や属性など全体の調和を考え、視聴者の意向が的確に反映されるよう、幅広い観点から委嘱を行っている。委員数は、2023年3月現在で中央審議会は15人、地方審議会は9～12人で組織している。会議は、毎月1回の定例開催日に議題を設けて実施している(8月は休会)。会長の諮問に応じて全国向けの「国内放送番組編集の基本計画」と各地域向けの「地域放送番組編集計画」について審議し、答申したほか、番組全般について意見交換を行った。

2 中央放送番組審議会

中央放送番組審議会は、2022年度中に11回開催し、会長の諮問により、12月に「2023年度(令和5年度)国内放送番組編集の基本計画」について審議し、答申したほか、広く国内放送番組全般について活発な意見交換を行い、放送番組への反映を図った(番組審議会委員一覧⇒p.348)。

また、5月に2021年度下半期、11月に2022年度上半期の国内放送番組の種別および種別ごとの放送時間について報告した。

▶2022年度中の主な議題

- 4月 ニュースジャンル等の番組、放送番組一般について
- 5月 経営計画における「達成状況の評価・管理」(2021年度第4四半期・1～3月)、放送番組の種別および種別ごとの放送時間(2021年10月～2022年3月分)、プロジェクト「君の声が聴きたい」、放送番組一般について
- 6月 趣味・実用ジャンルの番組、放送番組一般

について

- 7月 経営計画における「達成状況の評価・管理」(2022年度第1四半期・4～6月), NHKのデジタルサービス, 放送番組一般について
- 9月 2022年度後半期の国内放送番組の編成, 2023年度の番組改定, 放送番組一般について
- 10月 総合テレビ午後11時台の編成, 放送番組一般について
- 11月 経営計画における「達成状況の評価・管理」(2022年度第2四半期・7～9月), 放送番組の種別および種別ごとの放送時間(2022年4～9月分), 「2023年度(令和5年度)国内放送番組編集の基本計画(案)」, 放送番組一般について
- 12月 「2023年度(令和5年度)国内放送番組編集の基本計画(案)-諮問-」, 放送番組一般について
- 1月 『大河ドラマ』「どうする家康」, 放送番組一般について
- 2月 経営計画における「達成状況の評価・管理」(2022年度第3四半期・10～12月), 「2023年度(令和5年度)国内放送番組編成計画」「2023年度(令和5年度)インターネットサービス実施計画」, 放送番組一般について
- 3月 子どもの学びを応援する新たな取り組み, 放送番組一般について

3 地方放送番組審議会

全国8つの地域ごとに「地方放送番組審議会」が設けられ, 各地域の放送番組の基本方針を審議している(番組審議会委員一覧⇒p.348)。

2022年度中に各地域とも11回開催し, 会長の諮問に応じて「2023年度(令和5年度)各地方向け地域放送番組編集計画」について審議し, 答申したほか, 番組全般について意見交換し, その適正化を図った。

国際編成

国際放送番組編集の基本計画

海外の視聴者からの投書, 番組内容についてのモニターや短波の受信状況についての技術モニターの報告, 各種の調査などを参考にしつつ, 2022年度の番組提案を基に2022年度の番組編成を検討し, 「2022年度国際放送番組編集の基本計画」の原案を策定した。原案は2021年12月中旬の国際放送番組審議会に諮問し, 了承するとの答申を受け, 2022年1月中旬の経営委員会で議決承認された。

以下に原文どおり掲げる(p.131まで)。記号などは本書の方式に合わせた。

1 編集の基本方針

新型コロナウイルス感染拡大を経験し, 世界中で社会のあり方や価値観の変化が進んでいます。NHKの国際放送は, 変革の時代において世界の視聴者が求める公平・公正で確かな情報を, 日本の見方やアジアの視点を交えて発信していきます。災害報道などでは, インターネットも活用して多様な発信経路で, 多言語による安全・安心情報を迅速に届けます。あわせて, 経営資源の効率的・効率的活用の観点から, 国内放送との連携をさらに強化するとともに, 映像・音声・デジタルコンテンツのマルチ展開も推進し, 世界の人々に向けて質の高いサービスを多角的に届けます。

「NHKワールド JAPAN」の外国人向けテレビ国際放送では, 「ニューノーマル」の時代を迎える日本の姿を, ニュースと番組の両面で世界に伝えます。持続可能な社会の実現に向けた取り組みなど世界で関心の高いグローバルな課題を積極的に取り上げます。また, 新たな視聴者をひきつける番組開発に取り組み, 上質なエンターテインメント番組としてシリーズドラマ枠を新設, 世界で一層信頼され親しまれるメディアを目指します。また, 緊急報道や多彩な番組を通して, 在留外国人に向けた情報発信も充実させます。

外国人向けラジオ国際放送では, 17の言語でニュースや日本各地の話題, 日本語学習などを, 短波・現地再送信・インターネットの適切な組み

合わせて発信します。

デジタルサービスでは、災害時の英語および多言語による発信を強化するほか、より多くの人に親しんでもらうために、多様なコンテンツを提供します。ソーシャルネットワークサービス（SNS）などの活用も進め、各SNSのターゲットに情報を確実に届けます。

在外邦人に向けては、テレビ国際放送「NHKワールド・プレミアム」とラジオ国際放送「NHKワールド・ラジオ日本」を通じて、日本と世界の最新ニュースや、安全と安心を支える情報を伝えます。インターネットでの発信を強化し、利用拡大を目指します。

2 編集の重点事項と各波の編集方針

[1] NHKワールド JAPAN

▶ テレビ（英語・外国人向け放送）

- 「ニューノーマル」時代を迎える日本と世界を見つめる

新型コロナウイルスによる社会や価値観の変化を正確にとらえ、ニュースや番組で多角的に伝えます。また、持続可能な開発目標（SDGs）など世界共通の課題解決に貢献する番組を充実させます。

- 多様なネットワークの活用で信頼されるニュースを発信

国際公共メディアとして、日本やアジアの視点を交えて世界の出来事や課題を的確に伝えるとともに、ニューヨークスタジオをはじめとした海外発信拠点を活用し、正確で信頼される情報をいち早く伝えます。

- 世界の視聴者をひきつける新たなコンテンツを開発・発信

国内放送と連携してシリーズドラマを新設。経営資源の効率的・効果的な活用により、上質で訴求力のある番組を世界に届けます。また、歴史教養番組やデジタル調査報道番組など、NHKワールド JAPANの新たな強みとなるコンテンツの開発に取り組みます。

- ともに生きる 在留外国人向けサービスを充実

地震・台風などの災害時には、SNSやインターネットで多言語のニュース配信を行い、在留外国人や訪日外国人の安全・安心を支えます。また、多文化共生社会における相互理解促進につながる番組や日本語学習コンテンツを充実させます。

〔放送時間〕

世界全域…1日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上を編成します。

▶ ラジオ（17言語・外国人向け放送）

- さまざまなメディアの組み合わせによる情報発信

短波放送や現地再送信が有効なアジア・アフリカ地域や、インターネットが普及している欧米など、地域の特性に合わせ、メディアのベストミックスで全世界へ情報を発信します。

- ラジオ第2放送と連携した情報番組の充実

海外の聴取者に加え、日本各地に暮らす外国人にも役立つさまざまな情報を届けます。特に、英語・中国語・ベトナム語・ポルトガル語で提供している番組の拡充を図ります。

- インターネット活用の強化

中国語やタイ語、ベトナム語における動画ニュースやSNSによるニュースなどの発信に加え、ポッドキャストやAIスピーカーへの展開などに取り組みます。

〔放送時間〕

世界全域

1日およそ39時間44分（17言語合計）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上を編成します。

▶ インターネット

- さらに迅速に、さらに便利なサービスへ

オンラインコンテンツを充実させ、ウェブサイトやアプリの機能性・操作性の向上を図ります。特に、日本国内での災害発生時の英語および多言語による情報発信を強化していきます。また、最近注目されている音声コンテンツの充実に力を入れるほか、日本語学習コンテンツの強化も図り、より多くの人に親しんでもらうことを目指します。

- SNSでターゲットに情報を確実に届ける

SNSでは、日々のニュースに加え、生活や防災に役立つショート動画や多彩なコンテンツを発信するほか、国内のコンテンツとの連携も深め、NHKワールド JAPANの認知および信頼度の向上を国内外で図ります。SNSごとに異なる特性とユーザー層を捉え、ターゲットに情報を確実に届けます。

- 多言語コンテンツの一層の充実

AI（人工知能）による自動翻訳の活用を拡大し、ニュース記事の多言語展開を進めるほか、海

外の放送局への提供を強化するなど、NHKならではの多様で質の高いコンテンツを、世界の多くの人に届けることを目指します。

・在外邦人向けの情報発信を強化

在外邦人の安全・安心を守るため、インターネットでの情報発信やサービスの拡充に努めます。また、使いやすさを向上させ、在外邦人の「頼りになる情報源」としての役割を果たします。

【2】NHKワールド・プレミアム (日本語・在外邦人向け放送)

・「ニューノーマル」時代を読み解く手がかりを提示する

日本の「今」を多角的に伝えるとともに、最新の国際情勢や、コロナ禍で加速する働き方や価値観の変化など社会の動きについても丁寧に発信し、インターネット配信もさらに活用しながら、海外の視聴者に役立つ情報を提供します。

・海外の日本人の安全と安心を支える

大規模な事件・事故や、頻度と激しさを増す自然災害に際して、機動的にニュースを編成するなど必要な情報を的確に届け、日本語のライフラインとしての役割を果たします。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成

…1日およそ5時間

北米・欧州地域に向けた、現地の生活時間にあわせた番組編成…各1日およそ5時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組80%以上、インフォメーション番組5%以上、娯楽番組を若干編成します。

【3】NHKワールド・ラジオ日本 (日本語・在外邦人向け放送)

・最新のニュース・番組、安全・安心情報の提供

国内のニュースや情報番組、スポーツ中継など、多彩な番組を通して日本の情報を伝えます。災害や大規模な事件・事故の際は最新のニュースを国内と同時に届けます。また海外で暮らす日本人に世界各地の安全情報を伝えます。さらに、インターネット展開により聴取者の利便性を高めます。

〔放送時間〕

世界全域 1日あたり24時間(日本語)

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上、娯楽番組を若干編成します。

国際放送番組審議会

2022年度は11回開催された。会長の諮問に応じて、「2023年度国際放送番組編集の基本計画(案)」について審議し答申したほか、定時番組、特集番組などについても審議し放送番組の適正化を図った(国際放送番組審議会委員一覧→p.349)。

2022年度の主な審議内容は次のとおり。

- 4月 「国際放送の役割」について
- 5月 『Dear Mr. Collins - 80 Years Since the Japanese-American Internment -』 『Where We Call Home』 Far from Their Homeland, But Not in Heartについて
- 6月 『Fukushima Monologue II』について
- 7月 『SHOHEI OHTANI: A Baseball Virtuoso』 『Digital Eye Ukraine: The New Satellite War』について
- 9月 「国内在留外国人に向けたサービス」について
- 10月 『Japan-North Korea Summit 20 Years On: Diplomat's Secret Mission』 『TEEN REGIME』 Episode 1 Birth of a Regime について
- 11月 「2023年度国際放送番組編集の基本計画(案)」, 『Ethical Every Day』 Episode 3: Enjoying Meals with Less Waste, 『Rene Goes to School』 について
- 12月 「2023年度国際放送番組編集の基本計画(案)」(諮問・答申), 『NHK Documentary』 Conveying the Horrors of War: Ukraine's Frontline Journalists について
- 1月 『NHK WORLD PRIME』 Art is Our Voice, 『Culture Crossroads』 Southeast Asian Memories of Hiroshimaについて
- 2月 『Dive in Tokyo』 Yanaka - Building on the Past, 『NHK WORLD PRIME』 OKINAWA'S RETURN: 50 YEARS ON - Islands at Odds with Peace & Security - について
- 3月 『A Museum of Memories』 について